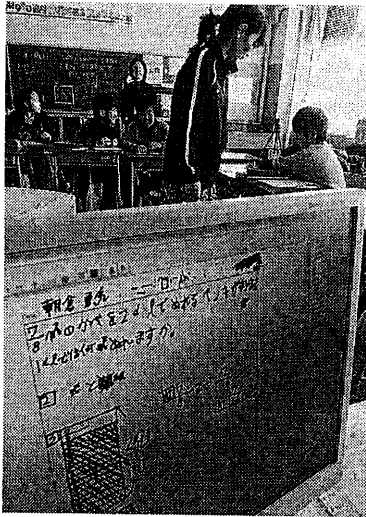


2007年12月6日付
日経産業新聞

授業中の筆跡無線送信

デジタルペン

大日本印刷はネット通信教育などを手がけるワオネット(大阪市、野々宮英二社長)と組み、筆跡データを自動保存できる「デジタルペン」を使った授業支援システムを開発した。生徒が専用紙に書いた筆跡を無線で教室内の教師のモニター画面にリアルタイムで送信して表示。一人ひとりの理解度などを一覧し、限られた授業時間でより効果的な指導ができるようにした。教育現場での実証実験を経て、来年四月から販売を開始する。



生徒の筆跡が無線を通してリアルタイムで表示される(東京・杉並の杉並第七小)

デジタルペンは、特別な点検様を印刷した専用紙に書くと、その筆跡をデジタルデータとして保存できるボールペン。大日本印刷とワオネットは、このデータを短距離無線通信規格「ブルートゥース」によってペン本体から直接、教師用モニターに飛ばすシステムを共同開発した。

大日印・ワオネット

専用紙に書き込み ▲生徒 教師▼ モニター画面確認

このほど杉並第七小学校(東京・杉並)の六年生の算数の授業で同システムの実証実験に着手した。生徒は文章問題を解くための式や考え方を示

すイラストなどを専用紙に書き込み、教師はモニター画面で確認する。必要に応じて生徒の筆跡をプロジェクターでスクリーンに投影し、本人の発言を促したり他の生徒の意見を募ったりする。

小学校教育では現在、公式を覚えるだけでなく、考える力を養うことが重視され、一人ひとりの考え方や意欲の正確な評価が求められる。これまでは授業中に教師が生徒のノートなどを見て回り、どこでつまづいているのか確認していたが、デジタルペンによって負担が軽減される。データはそのまま保存され、書き始めから筆跡通り再生することもできる。

教育現場へのデジタルペンの導入は、テストの問題別の正答率の算出など教師によるデータ管理業務が先行してきた。新

システムはペンにブルートゥース機能を搭載することで、生徒が日常的に使えるようにしたのが特長。杉並七小では「専用紙の価格さえ下れば、導入メリットは大きい」(高槻義一校長)としており、市場が一気に広がる可能性も出てきた。

トは二〇〇八年度にも約十件の実証実験に参加する計画。販売価格は四十人学級向けの場合、ペンとソフト、専用紙のセットで百五十万円前後の見込み。小学校のほか、学習塾や大学向けの授業支援ツールとして二〇一一年度までに約十億円を売り上げたい考えだ。